

第12回WHC42会開催記録（2018年4月3日）

このところ毎年桜の時期に都内で開催している42会、2年続けて3月の最終火曜日に開催したところ、一昨年は「ちらほら咲き」、昨年は「ちらっ」でしたので、今回は4月最初の火曜日にしましたが・・・

今年は、例年になく寒かった冬の眠りから急に春が目覚めて、例年になく早い桜の開花となり、東京の標準木のある靖国神社では3月17日に開花し、24日には平年より10日も早く満開になってしまいました。今回の花見の舞台である飛鳥山公園も26日に満開を迎えていました。



午前10時25分、この時点では14人がJR王子駅に集合して、早速パークレール(小型モノレール)に乗って飛鳥山山頂へ。この飛鳥山公園は、八代将軍徳川吉宗が約300年前の享保の改革の施策の一つとして、江戸っ子たちの行楽の地とするため、桜の名所にしたのが始まりとされ、明治6年に日本最初の公園の一つに指定された歴史ある公園だそうです。1週間前に満開を迎えたとあって、この日のソメイヨシノは桜吹雪より地面に散り敷く花びらの方が多く、我々のように早くから日程を決めていて遅い花見を楽しむ感じの

年配グループがそぞろ歩いていました。一方で、遅咲きの八重桜が今を盛りと咲き競っており、様々な色の桜を愛でながら、公園内の旧渋沢庭園の由緒ある建物や各種の博物館のある一角を歩きました。ブルーシートを敷いて車座になっている人たちも目に付き、春休み中とあって家族連れが多いのはともかく、サラリーマン風のグループが酒を酌み交わしていたのには「この時間から何の仕事をしている人だろう」と余計な声も飛び出しました。さらに川縁りに整備された音無親水公園へとのおんびりと歩いて会食会場へ至りました。

会食会場は王子駅近くにある「北とぴあ」16階の「王子東武サロン」で、このフロアからは歩いてきたばかりの飛鳥山公園を眼下に見下ろし、スカイツリーを正面に見ることができました。ここで揃った16人が2つのテーブルを囲み、いつものように42会産みの母・縹(日向寺)の開会宣言、次いで我らの花博士・田上の発声で、逝ってから4年を超えた植村君に黙祷を捧げた後、乾杯の音頭でビールに始まる大宴会の開始となりました。今年も布施から提供された越後の銘酒「雪中梅」がグラスに注がれ、和洋折衷の料理でひとしきりおしゃべりをしてから、各人の近況報告へと進みました。趣味に関する話題が3分の1、残りは健康に関わる内容が多く、しかもやや深刻に思える状況を明るく話していたのが印象的でした。

2時間のアルコールタイムの後はコーヒータイム。そこに出てきたお菓子が1万円札をかたどった「お札サブレ」。ここ王子は日本で最初の洋紙工場ができ、今も紙幣を印刷する国立印刷局の工場があることにちな



んだお菓子ということです。合計3時間ほど過ぎて、最後にスポーツジムの帝王・花田の音頭で三本締めをし、一年後の無事な再会を誓って散会しました。

1963年にWHCに入部してから今年で55年、現役時代は共に山を歩き、卒部後はそれぞれの道を歩いてきた同期の仲間と2006年に42会として再会してから12年、年に1度このように集まって、飲み、食べ、語らう時間を持てる楽しさを感じた一日でありました。

飛鳥山(あ・す・か・やま)を折り込み詠める・・・

「あれから50 数年経ても 変らぬご縁の 山仲間」

(五十嵐昭)